

MR1期ワクチン予防接種について

【 病気の説明 】

麻疹(はしか)は、感染力が極めて強く、免疫がなければほぼ100%の人がかかる病気です。発熱、せき、鼻汁などが数日続きいったん熱がさがりかけたあと、また39～40℃の高熱と赤い発疹が出ます。高熱は3～4日で解熱し、次第に発疹も消えます。発疹はしばらく色素沈着を残します。肺炎、中耳炎を合併しやすく、脳炎を合併し死亡することもあります。

風疹(三日ばしか)は軽いかぜ症状で始まり、発疹、発熱、リンパ節腫脹などが主な症状です。合併症として、血小板減少性紫斑病や脳炎などが報告されており、大人になってからかかると重症化しやすいと言われています。また、将来、妊娠早期に風疹にかかると、心臓病、白内障、聴力障害などの障害を持った「先天性風疹症候群」の子どもが生まれる可能性があります。

【 対象者 】

1歳から2歳の誕生日の前日までの者

【 接種回数 】

麻疹と風疹両方のワクチンを効率よく接種するため、2つのワクチンを混合(MRワクチン)で1回接種をします。1歳になりましたら早めに接種を受けましょう。

【 ワクチン接種前の注意点 】

- 麻疹または風疹にすでに罹っていても、MRワクチンを受けることができます。また、単独ワクチンのどちらかを選び、接種することもできますので、かかりつけ医と相談をしてください。

【 副反応 】

主なものは発熱と発疹です。ほか、発疹やかゆみなどが出ることがあります。また、重い副反応としては、まれですが、アナフィラキシー様症状、血小板減少性紫斑病、脳炎、けいれんなどの報告があります。

小児肺炎球菌ワクチン(追加)接種について

※初回接種が終了後、免疫力を高めるためにもう一度接種するのが、追加免疫です。

【 対象者 】 1歳から5歳の誕生日の前日までの者

【 接種間隔・接種回数 】

初回3回目接種終了後、60日以上の間隔をあけ、標準的には1歳から1歳3か月までの間に追加接種を1回行います。

【 副反応 】

主な副反応は、接種部位の発赤、腫れ、しこり、疼痛などの局所反応です。また、発熱が数%に起こります。重い副反応として、まれですが、ショック、アナフィラキシー、けいれん、血小板減少性紫斑病などの報告があります。